

(西暦) 2018 年 12 月 20 日

## 大腸癌の治療のため当院に入院・通院されていた患者さんの診療

### 情報を用いた臨床研究に対するご協力をお願い

研究責任者 所属 一般・消化器外科学教室 職名 専任講師

氏名 岡林 剛史

連絡先電話番号 0353633802

実務責任者 所属 一般・消化器外科学教室 職名 助教

氏名 茂田 浩平

連絡先電話番号 0353633802

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、下記問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

#### 1 対象となる方

西暦 2008 年 1 月 1 日より 2020 年 3 月 31 日 までの間に、一般・消化器外科にて大腸癌の治療のため、入院、通院し、手術を受けた方

#### 2 研究課題名

大腸癌におけるAtm発現解析に関する後ろ向き調査研究

#### 3 研究実施機関

慶應義塾大学医学部外科学教室・慶應義塾大学病院 一般・消化器外科

#### 4 本研究の意義、目的、方法

Atmは、遺伝性毛細血管拡張性運動失調症の原因遺伝子であり、血管の安定性に関与する遺伝子です。近年Atmは、DNA損傷応答の調節因子であり、細胞の老化や腫瘍新生のバリアとして働くことが報告されています。また、Atmは、癌細胞の浸潤と転移との関わりが注目されている。

Epithelial-Mesenchymal Transition(EMT;上皮間葉移行)と関係しているとの報告があります。このよう

なAtmによる血管新生やEMT誘導効果に関する報告を踏まえ、Atmは癌の転移形成において中心的な役割を果たしていると考えられました。われわれは、転移形成の初期段階に生じる分子形態学的メカニズムを明らかにすることを目指し、AtmとEMTの関わりを検証しようと考えています。この研究は、実際に患者さんの手術検体を使わせていただくことにより、Atmの発現量が大腸癌の進行にどう影響したかを明らかにすることを目的としています。そして、これらの発現量と大腸癌の進展や転移、臨床病理組織学的因子などの診療情報との相関を解析することによりAtmとEMTの関係について検討し、治療応用を目指します。

## 5 協力をお願いする内容

診療録・画像データ の閲覧、手術の際の病理検体の一部の使用

## 6 本研究の実施期間

倫理委員会で許可された 2020 年 3 月 31 日(予定)

## 7 プライバシーの保護について

1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報(住所、電話番号など)は一切取り扱いません。

2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ(匿名化データ)として使用します。

3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報(連結情報)は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に完全に抹消します。なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

## 8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

慶應義塾大学医部 一般・消化器外科 専任講師 岡林 剛史

電話番号: 03-5363-3802